

## 資料 No. 7

2021年1月25日  
これからの学術情報  
システム構築検討委員会

### 2020年度「JUSTICE 提案書情報のデータ共有に関する実証実験」について

#### 1. 2020年度活動計画

- (1) タイトルリストについて不十分な情報や不足している項目を取りまとめ、タイトルリストの項目整備を JUSTICE 事務局経由で出版社に依頼
- (2) タイトルリストに問題点が多い、いくつかの出版社のタイトルリストを調査し、課題を洗い出す。
- (3) JUSTICE 会員館が必要としており、2019年度の実証実験に含まれなかったライセンス項目について、中央システムの登録項目を調整
- (4) 2021年契約分の JUSTICE 提案書で追加された、ILL の詳細項目について、中央システムのライセンス情報との対応関係を整理

#### 2. 2020年度活動内容

2019年度に JUSTICE 会員館への公募で決定した 7 機関に引き続き協力を依頼し、2020年度は以下の機関から協力を得、実証実験を行った。

▶ 千葉大学、大阪大学、鹿児島大学、はこだて未来大学、明治大学、安田女子大学

##### A) タイトルリスト設定手順書の作成 →活動計画(2)

JUSTICE 提案の一部パッケージについて、正確なタイトルリストを生成するための手順書（ワークフローのテンプレート）を作成した（3月末までに完了予定）。

##### B) ライセンス情報の検証 →活動計画(3)(4)

- ① 中央システムのライセンス情報に「DDPの有無」、「サイトの定義」を追加する。また、「ILLの可否」「授業用教材への利用可否」の粒度を JUSTICE 提案書に合わせる形で調整した。
- ② 調整後のライセンス項目について、運用実態との比較を実施し、比較の結果判明した、不足項目や項目名の不備がないか検証する（3月末までに完了予定）。

#### 3. 2021年度活動計画

##### (1) タイトルリストの項目整備 →活動計画(1)

タイトルリスト設定手順書をもとに、出版社提供のタイトルリストで、項目整備が必要なパッケージを洗い出し、JUSTICE 事務局経由で出版社へタイトルリストの項目整備を依頼する。

##### (2) タイトルリスト設定手順書の拡充

2020年度作成対象外とした JUSTICE 提案パッケージに対し、手順書を作成する

##### (3) 運用開始に向けた準備（参考）

本実証実験の成果を踏まえ、**JUSTICE** 提案書情報(タイトルリストおよびライセンス)のデータ共有について、国立情報学研究所を中心に 2022 年度の運用開始に向けた準備を進める。

2021 年度も 7 機関に引き続き協力を依頼する予定である。

以上